

■プロジェクト名

保育の質を上げるための”保育ドキュメンテーションへの総合的 ICT 支援”

■事業者名

ユニファ株式会社

元の書式

新書式

週案は保育ウェブへ

- 【移した項目】
- 子どもの姿
 - 週の狙い・活動予定
 - 環境構成と留意点

日誌（日々の記録）は「ヒトコマ」へ

- 【移した項目】
- 主な活動
 - 評価及び反省
 - 個人記録



■実証実験の概要

○解決したい社会課題(背景・目的など)

1.全国的社会課題

女性の就業率は上昇し続けており(※1)、2025 年度までに 80%を超える水準にするという政府目標も掲げられるなか、保育所等の利用率も高まり続けている(※2)。

一方で、保育の現場は慢性的な人材不足が深刻な社会課題となっており、有効求人倍率も全職種平均の 2 倍以上の水準感である(※3)。2024 年から実施予定とされる「こども誰でも通園制度」は、多くの子育て中の家族の支えとなることが期待されている一方で、さらなる保育士不足が懸念されるという報道も多くなされている。

保育士の離職原因の 1 つに、業務量の多さにあると言われており(※4)現場の保育士においては、心と時間にゆとりがなく、あるべき質の高い保育を目指す環境が整っていない。

2.課題に紐づく福岡における現状

福岡県における保育士 有効求人倍率 1.2 倍*3、年収 352.4 万円となっており、全国平均と比較し、良好な水準となっている。(※5)

福岡市においては、全国の中でも保育士の働く環境が整っている状態であり、だからこそ、全国に先駆けて、これからさらに求められていく「保育の質の向上」を目指すことができる。

そこで、負担を増やすことなく保育の質を向上させるために注目されている「ドキュメンテーションならびに ICT 化」について、自治体レベルでは全国初となる実証実験を行い、「保育の質の向上」における効果を見える化する。

※1 「労働力調査（基本集計）2021 年平均結果の概要内、年齢階級別就業率の推移（25～44 歳）」（総務省統計局 2022 年 2 月）

※2 「保育所等関連状況取りまとめ」（厚生労働省 2022 年 8 月）

※3 「一般職業紹介状況」（厚生労働省 2020 年 1 月、2022 年 1 月、2022 年 2 月）

※4 「東京都保育士実態調査結果（報告書）」（東京都福祉保健局 2019 年 5 月）

※5 第 3 回 参考資料 1 保育士等に関する関係資料 保育士検討委員会

○実証実験の内容

- ・実証実験期間:2020年11月~2023年12月
- ・実証フィールド:福岡市内における私立保育園(6園)、公立保育園(3園)
 - *最終結果としての報告は、私立保育園2園のみ。実証のための環境整備が困難であったことと、経営者変更、業務フローの全体的改善において、弊社機能があわなかったこと等があり、最終的に活用継続した2園での結果報告となります。
- ・実証園の条件:保育の質の向上を目指しており、ドキュメンテーションに興味があるが、未実施の保育園(複数クラス対象)
- ・対象者:上記に所属する保育者
- ・目的:1.ドキュメンテーションにおける保育の質への影響を可視化
2. ICT支援でのドキュメンテーションの負担軽減度合いの可視化
- ・内容:写真の撮影からドキュメントの作成、周囲への共有をタブレットやパソコン等の端末で行い(ICT化し)、保育士の業務負担の軽減や、保育の質の向上についての効果を検証する。

<具体的な実施内容>

- 導入前の現状調査(アンケート調査)
- ドキュメンテーション研修を提供することでの効果測定
- 業務改善サポート(現在の業務フローの置き換え提案)
- ルクミードキュメンテーションを用いての適切な活用方法提案
- 活用後の調査(アンケート調査)

■実証実験の結果

1.まとめ

ドキュメンテーション ICT を活用する園において、業務負担低減の実感が持てる保育士が増え、保育の質につながる、保育計画の立てやすさ、園内の情報共有のしやすさ改善に寄与することが実現できた。

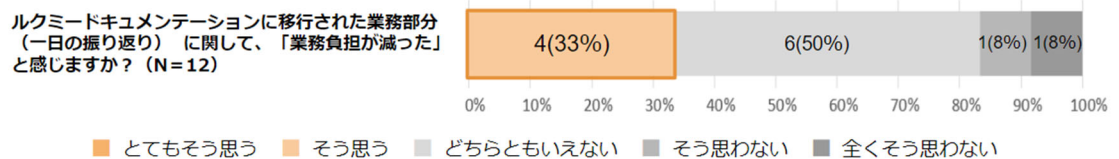
2.結果

ICT を使ってルクミードキュメンテーションの導入を実施した、私立園2園に在籍する保育士によるアンケートにて、以下の結果を確認。

*最終結果としての報告は、私立保育園2園のみ。実証のための環境整備が困難であったことと、経営者変更、業務フローの全体的改善において、弊社機能があわなかったこともあり、最終的に活用継続した2園での結果報告となります。

2-1ICT化における業務負担の低減

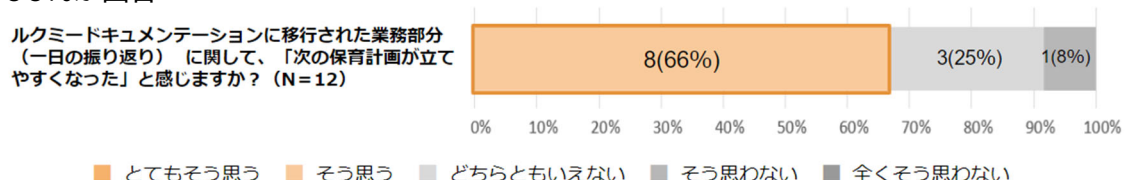
- ルクミードキュメンテーションに業務の一部を移行したことにより、3割の方が業務負担低減を実感ありと回答



2-2 保育の質につながる結果

- 日誌を作成する保育者

- 記憶想起のしやすさ、書く負担感の軽減(時間)次の保育計画が以前より立てやすくなったと66%が回答



- こどもの姿をとらえるスキル向上(成長実感)

- こどもの姿を表情だけでなく、総合的な状況の中で深く捉えることができていると実感する人が50%

*比較データではないため、参考結果

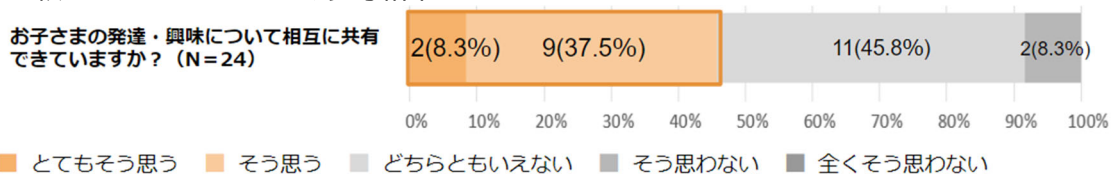
子どもの姿を表情だけでなく、周りの状況も見て、総合的な状況の中で子どもの動きを捉え深く理解することができていますか? (N=24)



● 保護者とのコミュニケーションとの自信(対話がしやすくなる)

○ 保護者とお子様の発達、興味についての相互共有ができている実感 45%

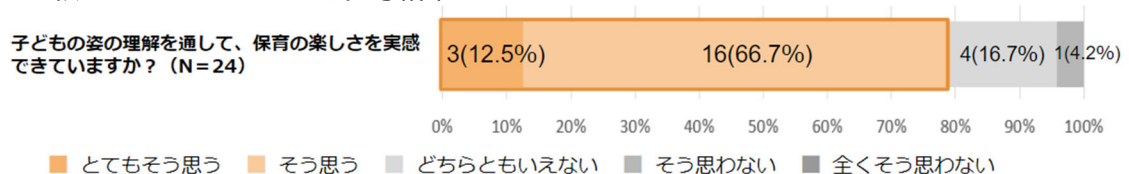
*比較データではないため、参考結果



● 保育者のモチベーション向上(定着率の維持向上へ)

○ こどもの姿を通して保育を楽しいと約 80%が実感

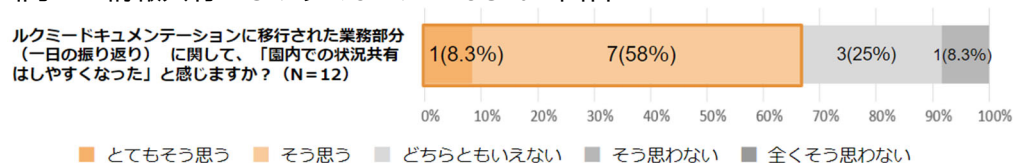
*比較データではないため、参考結果



● 保育の質につながる結果

○ ドキュメンテーション業務に直接関わる保育者において、保育者間のコミュニケーション(会話)増加 & 会話の質(こどもの姿のとらえ方)に向上傾向が見られた

■ 園内での情報共有がしやすくなったと 63%が回答



● 【参考】実証実験に参加した園に勤務する保育者からのアンケートコメント

○ 写真つき記録になることで、子どもの姿を保育者同士で共有しやすくなった。

○ 子どもの様子について具体的な話がしやすいので、明日の環境づくりなどの計画を考えやすくなった。

3.今後の展開

今回ドキュメンテーションの ICT 導入を行ったのは二園のみであったが、業務負担の軽減だけでなく、計画への振り返りなど本来の保育業務において時間をかけたい部分にしっかり集中できている傾向が確認できた。

今後は、他の園でもルクミードキュメンテーションを活用いただくことで、負担感の軽減、保育の質の確保・向上の実感ができる園を増やしていきたい。

■問い合わせ先

ユニファ株式会社 経営企画室広報課 後藤

メールアドレス: press@unifa-e.com

令和2年11月18日
福岡市総務企画局企画調整部
福岡地域戦略推進協議会

福岡市実証実験フルサポート事業 「保育の質を上げる“ドキュメンテーション（写真付き保育記録）”の ICT 支援」 実証実験開始！

福岡市と福岡地域戦略推進協議会（FDC）では、AI や IoT 等の先端技術を活用した社会課題の解決等に繋がる実証実験プロジェクトを全国から募集し、優秀なプロジェクトの福岡市での実証実験をサポートする「福岡市実証実験フルサポート事業」を実施しています。

この度、令和2年3月に採択された、ユニファ株式会社による「保育の質を上げる“ドキュメンテーション（写真付き保育記録）”の ICT 支援」の実証実験が下記のとおり開始されますのでお知らせします。

記

1 事業者 ユニファ株式会社（代表取締役 CEO 土岐 泰之）



2 実証実験の内容

（1）概要

今回の実証では、下記の保育園において、写真の撮影からドキュメントの作成、周囲への共有までを全てタブレットやパソコン等の端末で行い（ICT 化し）、保育士の業務負担の軽減や、保育の質の向上についての効果を検証します。

※ドキュメンテーションとは、子どもたちの会話や行動、その日の活動内容などを写真やコメントで記録し、子どもたちの興味や関心、保育を目に見えるようにすることです。

（2）参加する保育園

- ①いるべ保育園（早良区） ②香椎保育所（東区） ③キッズ・キッズ保育園天神（中央区）
- ④さいとみんなの家（西区） ⑤ストロベリーヒルズ（東区） ⑥田島保育園（城南区）
- ⑦つくしんぼのいえ（博多区）

（3）期間 令和2年11月28日～令和3年秋頃

※詳細は、別紙、実施事業者のリリース資料をご参照ください。

【お問い合わせ先】

福岡市総務企画局企画調整部 吉村、八尋
電話：092-711-4879（内線 1219）

ユニファが福岡市実証実験フルサポート事業として、 「保育の質を上げる”ドキュメンテーション（写真付き保育記録）”の ICT 支援」 の実証実験を開始

テクノロジーで保育業務の負担を軽減し、社会の課題を解決するユニファ株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役 CEO：土岐泰之、以下ユニファ）は、「保育の質を上げる”ドキュメンテーション”（写真付き保育記録）”の ICT 支援」の実証実験にご協力いただける福岡市内の保育施設 7 園をテスト園として決定し、実証実験を下記のとおり開始しますのでお知らせします。

※ドキュメンテーションとは、子どもたちの会話や行動、その日の活動内容などを写真やコメントで記録し、子どもたちの興味や関心、保育を目に見えるようにすることです。

福岡市
実証実験
フルサポート事業

×



■ 実証実験を行う背景

▼全国における社会課題

労働人口の増加分は約 8 割が女性^{※1}であり、女性の就業率上昇に伴い、1・2 歳の保育施設利用率が急激に上昇しており^{※2}、今後も上昇が見込まれます。一方、保育士不足は深刻であり、平均求人倍率は 1.93 倍^{※3}と高くなるものの、保育士の離職率は約 18%と、看護師と比較しても約 2 倍近く^{※4}と非常に高くなっています。離職原因は、職場の人間関係、給与(平均 322 万円)に続き仕事量の多さがあげられ^{※5}現場の保育士においては、心と時間にゆとりがなく、あるべき質の高い保育を目指す環境が整っていないと考えられます。

そこで、業務負担を増やすことなく、保育の質を向上させるために注目されている”ドキュメンテーション”ならびに”ICT 化”について、自治体レベルでは全国初となる実証実験を行い、「保育の質の向上」における効果を”見える化”していきます。

新型コロナウイルス感染症拡大で影響を受けた際も、保育現場は変わらず社会インフラとして子どもたちの安心と安全を守るために稼働を続け、幼児期に行われる保育こそがこれからの未知の時代を生き抜いていく子どもたちを育てる大切な場所として、最前線で保育を提供していました。子どもたちをより丁寧に、より豊かにみんなで育てていく、そのためにテクノロジーを活用し、つながり、共有し、対話し、より良い環境を築いていきます。

■ 保育ドキュメンテーションについて

毎日の保育を"写真付き保育記録"として、子どもたちの様子を収めた写真に保育者のコメントを付け、子どもたちの興味や関心、保育を目に見える状態にすることです。またこれをもとに、保育者同士の対話や振り返りに活用することで「次への発展」を検討し、保護者とも共有をすることで子どもや保育施設への理解を深めていく、子ども主体の保育を実現する手法として注目されている手法です。

今回の実証実験のプログラムとして保育者向けの研修も組み込まれており、単に日々の写真付き記録に取り組むのではなく、記録のポイントやその後の活用を通じて、保育者や保護者みんなで子どもの育ちを考えていくプログラムとなっています。

■ スケジュール (予定)

2020 年	
11月28日	合同セミナー & 1 回目ドキュメンテーション研修実施
12月11日	2 回目ドキュメンテーション研修実施
2021 年	
1月19日	3 回目ドキュメンテーション研修実施
2月10日	4 回目ドキュメンテーション研修 成果発表
4月	各園にてドキュメンテーション継続実施およびユニファより随時他園の事例紹介
秋頃	ドキュメンテーション ICT 活用の開始
	ドキュメンテーション ICT 活用の効果測定

■ ドキュメンテーション、ドキュメンテーションの ICT 化について

ドキュメンテーションの ICT 化とは、写真の撮影から、ドキュメンテーションの作成、周囲への共有までを全てタブレットやパソコン等の端末で行うことを指しています。このメリットは以下 2 点です。

① 関連する記録の紐付け

日々作成したドキュメンテーションを、一時的な成果物として終わりにするのではなく、長期的な観察を続けることでその効果は倍増していきます。この鍵は、記録の「関連性の管理」にあります。これをアナログな成果物で実施しようとすると、関連性まで考慮したファイル管理が必要となり、非常に困難です。

一方で、ICTによる作成、管理ではこうしたコストを減らすとともに、手書き等での運用では見えてこなかったつながりまで発見することができます。また、そうして生まれる新たな対話によって保育の質をより高めることに貢献していきます。

②よりスムーズな情報共有

ドキュメンテーションをもとに保育者同士の対話量を増やすこと、そして保護者に参加してもらうためには情報に手軽にアクセスできる利便性が大切です。手元ですぐに確認できないドキュメンテーション、1部しかない資料では、複数人の保育者がその時々で語り合いを始めることは容易ではありません。また、従来の壁張りの掲示では、保護者は送迎のタイミングでしか見ることはできませんでした。データ化して配信するにも、手間が掛かってしまいます。こうした情報共有をICTでよりスムーズに行うことで、ドキュメンテーションの活用を更に発展させていきます。

(イメージ図)

今まで



これから



■ 「ルクミー」シリーズについて <https://lookmee.jp>

「ルクミー」シリーズとは、保育現場での業務負担を軽減するための、IoTやAIを活用した保育支援サービスです。保育園での乳幼児の安全なお昼寝を見守る医療機器によるヘルスケアサービス「ルクミー午睡チェック」、子どもの写真・動画をAIによる写真選定によってオンライン購入ができるサービス「ルクミーフォト」、登降園管理、電子連絡帳や帳票管理を揃えたサービス「キッズリー」などを展開しています。



現在、全国計 30ヶ所以上の地方自治体で「ルクミー」シリーズの導入が完了しており、サービス導入数は計 10,000 件を超え、今後も追加導入を予定しております。なお、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からも「ルクミー」シリーズは注目を集め、保育・子育て領域におけるDX（デジタル・トランスフォーメーション）を推進しております。

■ ユニファ株式会社について <https://unifa-e.com>

ユニファは保育・育児関連の社会課題を解決することを目指す“Childcare-Tech”領域のスタートアップです。「家族の幸せを生み出す あたらしい社会インフラを 世界中で創り出す」をパーパス（存在意義）に、IoT や AI を活用した保育・子育て支援デバイスの開発およびサービスを提供しています。ユニファが提供をする「ルクミー」シリーズの各種サービスを統合することで子どもの安全や保護者の安心、そして保育業務の負担軽減を実現する次世代型保育施設「スマート保育園®」および「スマート幼稚園®」、「スマートこども園®」の展開により、保育現場における課題解決を通じた保育施設の社会インフラ化、そして女性活躍の推進や労働人口の増加を支援します。

■ オンライン研修イベント『保育をどうしよう未来会議』のおしらせ

ユニファでは、11月24～28日の5日間を“保育をどうしよう未来会議 supported by ルクミー”とし、教育学、教育人間学、育児学などを専門とする東京大学名誉教授および白梅学園大学名誉学長を務める汐見稔幸先生など、様々な講師の方をお招きしたオンラインセミナーを実施予定です。

新型コロナウイルスの感染拡大によって様々なものが激変した今、保育をどのように行っていくべきか？それは園長先生をはじめ保育に関わられる皆さま共通のテーマだと思います。ユニファでは、オンライン研修の開催を通じて、皆さまの知恵を共有できる場を設けることで、少しでも保育現場の皆さまにとって、日々の保育の振り返りや、コロナによって失われた研修機会を少しでも補うことにつながればと考えております。

※詳細/事前登録はこちら（録画視聴を希望の方も事前にご登録下さい）

<https://lookmee.jp/miraikaigi/>

(出典)

*1 総務省統計局「労働力調査平成30年」

*2 厚生労働省「保育所等関連状況取りまとめ」

*3 厚生労働省「平成27年 第三回保育士に関する関係資料」

*4 保育士：平成25年社会福祉施設等調査(厚生労働省統計情報部)、看護師：公益社団法人日本看護協会 広報部(2017年) 第1回看護職員需給見通しに関する検討会(保育士は2年未満での離職率、看護師は新卒での離職率を比較)

*5 東京都福祉保健局「平成30年度東京都保育士実態調査結果」

*6 厚生労働省「第3回 参考資料1 保育士等に関する関係資料 保育士検討委員会」

■ 本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先

ユニファ株式会社 広報 担当：後藤、藁科

電話：03-6284-2666

mail：press@unifa-e.com